

2022年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任				
公民	倫理	2	3年次	二瓶 賢一				
使用教科書	清水書院「高等学校 新倫理 新訂版」		使用副教材	第一学習社「テオリア 最新倫理資料集新版四訂」				
科目の目標			道徳教育のねらい					
人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			先哲の思想、宗教、哲学などは人間尊重の精神・生命への畏敬の念などの考え方の根拠となる。倫理の学習全般を通して、多様な現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めていく。					
学習活動内容			育てたい6つの力(資質・能力)					
			1	2	3	4	5	6
			主体的学習力	基礎力	思考・分析力	発信・表現力	自他認知・協働力	計画実行力
1	第1編 現代に生きる自己の課題		○	○	○	○	○	
	第2編 人間としての自覚と生き方							
2	第1章 人生における哲学		○	○	○	○	○	
3	第2章 人生における宗教		○	○	○	○	○	
4	第3章 人生の知恵		○	○	○	○	○	
5	第4章 人生における芸術		○	○	○			
	第3編 現代社会と倫理							
6	第1章 現代の倫理的課題		○	○	○			
7	第2章 現代に生きる人間の倫理		○	○	○	○	◎	
	第4編 国際社会に生きる日本人の自覚							
8	第1章 日本の風土と外来思想の受容		○	○	○	○	○	
9	第2章 現代の日本と日本人としての自覚		○	○	○	○	○	
10	第5編 現代の諸課題と倫理		○	○	○	○	○	
11	グループワーク		○	○	◎	◎	◎	
12	課題提出		◎	◎	◎	◎	○	◎
13	考査		○	◎	○			○
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断			技能・表現		知識・理解
	青年期の課題、宗教や哲学などの人類の英知、現代社会の諸問題についての関心を高め、人間のあり方・生き方について自覚を深め、人格形成への実践的意欲を高める。		青年期の自己形成と人間としてのあり方・生き方について思考を深め、広い視野から主体的に判断し、表現する。			さまざまな宗教・哲学に関する資料や現代社会の諸問題に関する資料を主体的に収集・選択し、考察した内容について適切な表現をする。		青年期の課題、宗教や哲学などの人類の英知、現代社会の諸問題についての知識を身につけ、人間としてのあり方・生き方について理解を深める(含、問題演習)。
評価の方法	課題、ノートや授業中の発表・発言、討議などに取り組む姿勢から、意欲的に取り組んだかを評価する。		定期考査や課題などにより、自己形成と生き方について広い視野から主体的に判断し、表現できるかどうかを評価する。			定期考査や課題などにより、情報の収集・分析・精査する力を活用できるかどうか、またそれを適切に表現できるかどうかを評価する。		定期考査や課題などにより、基本的な事柄を理解し、知識を身につけ、人間としてのあり方について理解を深めたかどうかを評価する。

倫理 授業計画

学習指導計画				実施状況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前 期	4月	第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 人間とは何か(1) 第2章 青年期の課題と自己形成(2)	青年期特有の問題をふまえ、人間としての在り方・生き方について考える。 ・青年期の意義、青年期に関する用語 ・自己の理解に向けて、欲求・葛藤など ・自己実現、モラトリアム～アイデンティティ	3	前 期
	5月	第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学(6) 第2章 人生における宗教(6)	さまざまな地域と時代を代表する先哲の思想を学び、人間としての自覚を深め自らの人間観の確立に役立てる。 ・ギリシャ思想の流れ～万物の根源探究、ソフィスト ・ソクラテス、プラトン、アリストテレス、ヘレニズムの思想 ・ユダヤ教～イエス～キリスト教、イスラーム ・インド思想の流れ、バラモン教～ブッダ～仏教		
	6月	(前期中間考査(1)) 第3章 人生の知恵(4)	・儒家思想、朱子学、陽明学、道家思想 (孔子、孟子、荀子、朱子、王陽明、老子、荘子)		
	7月	第3編 現代社会と倫理 第1章 現代の倫理的課題(1) 第2章 現代に生きる人間の倫理(16)	・近代とは何か、ウェーバーなど ・ルネサンス、宗教改革、モラリスト (ルター、カルヴァン、パスカル、モンテーニュ) ・経験論(ベーコン、ロック、パークリ、ヒューム) ・合理論(デカルト、スピノザ、ライプニッツ) ・社会契約説(ホッブズ、ロック、ルソー) ・観念論、功利主義、プラグマティズム (カント、ヘーゲル、ベンサム、ミル、ジェームズ、デュルケム)	18	
	8月	現代に生きる人間が直面する諸課題を倫理的な視点からとらえ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として主体的に思索を深める。	・社会主義、実存主義 (マルクス、キルケゴール、ニーチェ、ヤスパース) (ハイデガー、サルトル、カミュ)		
	9月	(前期期末考査(1))			
後 期	10月	第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 第1章 日本の風土と外来思想の受容(15) 日本人が人間をどのようにとらえ、自然や宗教とのかかわりをどのように考えていたかを、自己とのかかわりにおいて理解する。 第2章 現代の日本と日本人としての自覚(1)	・日本人の倫理観・宗教観 ・仏教伝来～奈良仏教～密教、浄土信仰、鎌倉仏教 (聖徳太子、最澄、空海、法然、親鸞、道元、日蓮ほか) ・江戸時代の思想 <朱子学、陽明学、古学、国学> (林羅山、伊藤仁斎、荻生徂徠、本居宣長ほか) <心学、農民の思想> (石田梅岩、二宮尊徳、安藤昌益ほか) <幕末の思想> (佐久間象山、吉田松陰、藤田東湖ほか) ・明治以降の思想 <キリスト教、大正デモクラシー、西田哲学、民俗学> (内村鑑三、文豪ら、西田幾多郎、柳田国男ほか)	17	後 期
	11月	第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理 第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の変容と共生 第5章 情報社会とその課題 第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人類の福祉と国際平和 (後期中間考査(1))	それぞれの課題追求においては、諸事象の関係づけや分析・総合などの思考活動を促し、課題についての理解の深化を図ることによって、自ら学び、自ら考え、判断する力を身に付け、事象を多角的、総合的にとらえる。		
		(復習と演習)	要点整理、共通テスト対策	5	